

【現状の課題】

- コンプライアンス推進の取組は、振り返りを行ないつつ、継続している一方で、「慣れ」や「飽き」が懸念される。
- コンプライアンスの推進を意識する余り、職員が萎縮し積極的な事業展開が阻害され、林務行政の停滞も懸念される。

【見直す計画の位置付け】

- 長野県行政経営方針の下部計画であることをより明確にし、大北森林組合等補助金不適正受給事案の反省を踏まえ、職員が高い志と仕事への情熱を持って活躍する組織を目指すことを、より重点的に打ち出す。
- コンプライアンスとは、単に法令を遵守することではなく「社会からの要請を常に真摯に捉え、思考・議論したうえで自らの業務に取り込むこと」の意識を徹底する。

【見直す計画の方向性】

取組項目は、柱建てや目的と手段を整理し、レベルの見直しを行ない、意識調査の結果を踏まえ、真に必要な取組項目に絞る。

職員意識調査において、効果的でない、負担が多いとされた項目について、効果、必要性、あり方等を検討し、廃止又は内容を見直す。
(例) 「きらりと光る」、「情報発信」、「星取表」など ⇒ 次ページ参照

林務部コンプライアンス推進行動計画の見直しの方向性 (たたき台)

【意識調査による取組項目の評価と見直しの方向性 (案)】

取組項目	効果的でない	負担が大きい	効果的	方向性(案)	
⑮ 「頑張った」あるいは「きらりと光る」取組の収集・発信	1位	2位	10位	検討	評価は低い。モチベーション向上対策は必要、検討
⑥ 各所属で林務部コンプライアンス推進行動計画を基にワークショップ等を開催、業務改善に繋がる星取表を作成	2位	1位	6位	継続 一部見直し	PDCAサイクルを回す根幹の取組であり、負担軽減も踏まえて、実施方法を検討
⑰ 林務部 部課室長その他関係する職員が現地機関を訪問するなど、直接課題を把握する機会を増やす	3位	5位	4位	検討	評価が割れている。取組項目とするか、通常業務とするか検討
③ 林務部改革プロジェクトチームによる民間企業訪問研修、行動計画の見直し提案等	4位	4位	6位	継続 一部見直し	評価が割れている。取組の途上であり、より効果的な方策を検討
⑳ 業務内容や取組状況等を積極的に情報発信及びSNSを活用した情報発信の簡素化	5位	2位	8位	項目から除外	取組項目からは除外するものの、通常業務の必要範囲で実施、
⑭ 森林・林業行政の歴史や現状、取組方針等を共有	6位	10位	8位	項目から除外	取組項目からは除外するものの、通常業務の必要範囲で実施
④ 長野県行政経営理念、長野県行政経営方針の理解・定着	7位	9位	4位	項目から除外	取組項目からは除外するものの、行動計画には記載
⑳ 職員自らの工夫・実践により、成果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る	8位	7位	3位	継続	PDCAサイクルを回す根幹の取組であり、継続
㉒ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける	9位	5位	2位	継続	職員の能力向上に資する取組であり、引き続き実施
㉑ 専門研修や担当者会議の実施による業務に必要な専門的知識や技術の習得	10位	8位	1位	継続	職員の能力向上に資する取組であり、引き続き実施

林務部コンプライアンス推進行動計画の見直しの方向性 (たたき台)

【林務部コンプライアンス推進行動計画に関するスケジュール】

	H30年度	R元(H31)年度												R2年度	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
改革推進委員会	25日: 第7回 委員会						3日: 第8回 委員会					見直し案 助言依頼		第9回 委員会	
本部会議		19日:第19回 本部会議											第20回 本部会議		第21回 本部会議
行動計画	26日: 今年度計画 策定					24~8月20日: 意識調査実施		見直し素案 作成		見直し素案 意見交換	見直し案 作成	調整	調整	調整	R2年度計画 策定
			10~17日: 星取表素案 意見照会	12日: 星取表 運用開始											
改革PT				12~20日: 募集	8日:第1回 会議	9日:第2回 会議		第3回 会議		第4回 会議	第5回 会議		第6回 会議		
その他			22日: 大北專案、 行動計画 新任研修		26日:OM 第3回GIS		12日:OM 第4回GIS、 大北地区 森林整備 実務者研修								
			部課室長等の現地訪問による直接課題の把握												

※ OMIは林務部オープンミーティング